

2022（令和4）年度

## 土橋北遺跡資料整理だより

2023年 3月3日  
阿賀野市 生涯学習課

### 1. はじめに

今年度、阿賀野市教育委員会は、2019年に発掘調査を行った土橋北遺跡（D区北側）の資料整理を実施しました。

資料整理を通して様々なことがわかってきました。3月中旬に『発掘調査報告書（以下、報告書）』が刊行されますが、その前に成果の一部をご紹介します。

### 2. 遺跡の概要

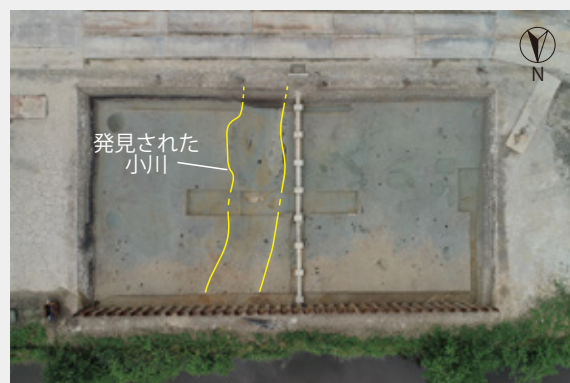
土橋北遺跡は安野川の南側、東西約700mの範囲に広がる縄文時代、江戸時代を主体とする遺跡です。2019年度に東端の安野川旧堤防の下、約860㎡（中層430㎡、下層430㎡）の発掘調査を実施しました（①）。

遺跡は中層と下層の2面があり、中層は縄文時代晩期（約2,500年前）、下層は後期（約4,000年前）の遺跡です。

調査範囲中央で、南北に流れる幅4mほどの小川が発見されました（②）。縄文人はこの小川のまわりで活動していました。



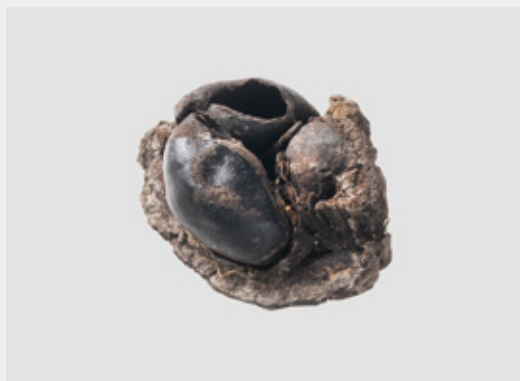
① 遺跡の全景（北東から）



② 真上からの写真（下層）

### 3. 下層の様子

後期・縄文人は、発見された小川の東側で活発に活動していました。当時、この小川は流れていて、周囲にはクルミやトチノキの林がありました（③・④）。人びとが暮らすムラは、南西にある土橋遺跡でした（①）。人びとは、この場所に来て木の実を採集していました。約4,000年前の土橋北遺跡は、食料を得るための場であったと考えられます。



③ トチノキ



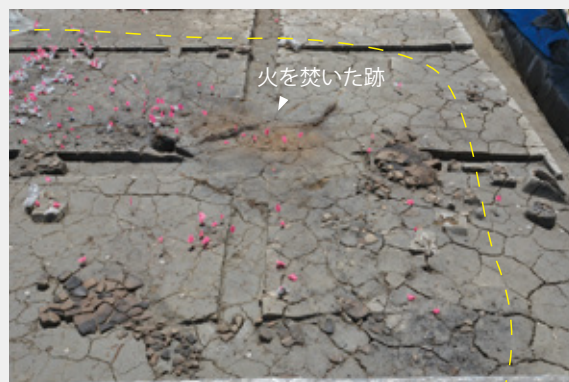
④ クルミ

#### 4. 中層の様子

晩期になると、活動の場は小川の西側に移ります。川辺では火を焚いた跡、炭が広がる場所が発見されました (⑤)。

この場所では 34kg もの土器が出土しています。つぶれた状態の土器のほか、壊した土器の破片を散布する例も見られます。

この場所では、木の実がたくさんとれるように願う「豊穰」と「再生」を祈念したマツリがさかんに行われていたことが想像されます。



⑤ 火を焚いた跡 (▲) と炭が広がる場所 (○)

#### 5. イッピン出土品

たくさん出土品がありますが、その中のイッピンをご紹介します。

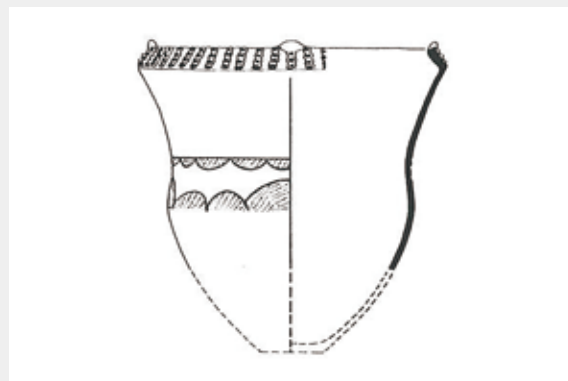
⑥の土器は大きな鉢の口辺部分です。破片4点のみが発見されました。くの字に内屈する口辺に縦長粘土が貼り付けられています。

私たち県内研究者も見慣れないこの土器は、遠く静岡県・岐阜県・愛知県の特徴を持つ「蜷塚Ⅲ式」と呼ばれる土器です (⑦)。新潟県内で初めて発見されました。

「なぜ、どのように運ばれてきたのか」という疑問はすぐに解決できませんが、おそらく近くにある大きなムラ・土橋遺跡にもたらされた特別な土器であったと考えられます。



⑥ 発見された土器



⑦ 蜷塚遺跡出土土器 [戸沢編 1994 より]

#### 6. おわりに

小規模な発掘調査でしたが、資料整理を通して様々なことがわかってきました。興味を持たれた方、もう少し知りたいと思われた方、3月中旬に刊行される『報告書』をぜひご覧ください。4月以降、順次市内・県内公立図書館に配布いたします。

#### 参考文献

戸沢充則編 1994 『縄文時代研究事典』東京堂出版